

# 2007年度 活動総括

## 1. 安心して子どもを産み育てられるまちづくりを目指す取り組み

<適正規模のすてきな園舎づくりを！あずま・さかえ保育園建替えについての検討>

松原団地の建替えに伴うさかえ保育園の建替え計画（開園予定22年度）における市の方針は、待機児童対策として現在の120人定員を180人以下の大規模定員にするとのことでした。しかし父母連としては、一般的に質の良い保育を行う上では100人程度が適正規模といわれていること、大規模になればなるほど運営上の問題や安全面の心配、保育に制約が生じるなどのことから、大規模園による待機児童対策ではなく、新さかえ保育園は適正規模の定員設定を！ 今後の方針として、待機児童対策は適正規模の保育園新設で対応してほしい、とのお願いをしてきました。

それらを受けて、6/1には草加市主催による大規模園「羽生市社会福祉法人とねの会保育園」の見学会が、7/7には草加市主催による「羽生市とねの会保育園見学会報告」「あずま保育園・さかえ保育園建て替え説明会」が開催され、保育課・園長・保育士・保育園保護者・父母連事務局などの多くの方々が参加しました。

とねの会保育園は250人定員という大規模保育園でしたが、様々な工夫で大規模ながらも子どもが伸びやかに育まれている様子が報告された一方、草加市との立地条件や敷地面積の違いや保育内容の違いも報告され、ケースバイケースで実情に合わせた検討が必要との意見もあがりました。

10月・12月の説明会では、新さかえ保育園は柔軟な対応が図れる施設（1歳児室～5歳児室まで10室/調乳室・沐浴室/多目的室・遊戯室など）最大180人が入れる施設だが、当面の定員は150人とする 2・3階の「子育て支援センター（仮称）」との施設共有化（多目的室・遊戯室など）現在のさかえ保育園0歳児室を残し、新たに市として「病児・病後児保育を実施」0歳児クラスの設置は行わないが看護師を配置する予定 などの方針が出されました。

父母連としては、具体的な設計に保護者や現場の要望を取り入れていただいたこと、看護師を配置していただいたこと、病児・病後児保育の実施などに感謝し評価しながらも、今までにない大規模園であることや公立園における0歳児保育の廃止と家庭保育室への移行の件などを含めて、今後も現場の声を吸い上げながら、市との話し合いを続けていきたいと考えています。

<最終21年度までの第2きたうら保育園3・4・5歳児クラスの存続が決定！！>

第2きたうら保育園は、きたうら保育園建替えの際の仮園舎としてスタートしましたが、市の尽力により、園舎活用の視点から1年限りの新設保育園「第2きたうら保育園」としてオープンしました。その後、保護者の熱い思いや待機児問題を勘案しての市の更なる尽力で、受入れ年齢の段階的廃止により移園児を出さないことを条件に、さらに5年間存続することを議会で承認していただきました。（17年度:1歳～5歳/18年度:2歳～5歳/19年度:3歳～5歳/20年度:4歳～5歳/21年度:5歳のみ）しかし昨年度第2きたうら父母会では、この件について全保護者にアンケートをとり、園長先生や職員の方々とも話し合いを重ねて、“受入れ年齢の段階的廃止を見直し、せめて3・4・5歳児クラスの存続を！”との共通の思いを確認し、繰り返し市長懇談会にてその思いを訴えてまいりました。その結果、2007年6月に「3・4・5歳児クラスの存続が決定！」との正式通知が市より届きました。市長に感謝するとともに、保育園としての機能の存続や異年齢児保育を通した子どもたちの豊かな生活を継続できることをともに喜びあいました。20年度以降も第2きたうら保育園がいきいきと運営していけるよう、父母連としても積極的に協力していきたいと思えます。

<公立園における0歳児保育の廃止と家庭保育室への移行/家庭保育室の充実>

～家庭保育室の充実は大歓迎！公立園での0歳児保育の継続もお願いします！～

7/7の市の説明会で「家庭保育室整備計画（素案）」が初めて父母連に提示されました。あくまで今後の計画作成のためのたたき台であるとの前置きで、以下の概要が説明されました。

平成27年度までに家庭保育室を40室程度整備して合計定員を171人とするとともに、順

次、公立園での0歳児保育を廃止していく。

名称は「草加市認定 家庭保育室」、国基準以上の安全基準、認可保育園の周辺に新設など  
保育従事者の配置基準は保育園と同じ人数

認可保育園との連携（園庭・プール・遊具の共同利用、保育園職員会や研修会への参加・園長  
や栄養士や看護師等による巡回指導など）

家庭保育室保育料へのきょうだい減免の実施、保育園直近の家庭保育室に優先入室、入室と同時  
に退室後の保育園入園を確定するなどの保護者支援

父母連としては、代表者会を通して各父母会の意見を吸い上げた上で、家庭保育室のより一層の  
充実や、定員に見合った家庭保育室委託料補償、家庭保育室保育料のきょうだい減免は大変喜ばし  
いことと歓迎しつつも、待機児童対策や草加市における安全・安心な質の高い0歳児保育を継続し  
ていくためにも、公立園での0歳児保育の継続や、良質な家庭保育室を確保するための十分なスタ  
ッフの配置・認定基準の見直し・巡回相談や指導・研修の機会保障などを盛り込んだ要望書を1月  
に市に提出しました。また、1月の役員レベルでの市長懇談会などを通して、保育の質の低下につ  
ながるような無理な計画実行は行わず、あくまで現場の状況に応じて計画を調整しながら無理なく  
進めていくこと、今後は核となる保育園からの連携保育士・看護師の派遣などの新たな方策も視野  
に入れていくなどの回答をいただいております。

今後も現場の意見や各父母会の皆さんの意見をもとにしながら、市との話し合いを大切に、よ  
りよい保育環境をめざしていきたいと考えています。

< 公立保育園退職技能員枠（4名）のシルバー人材センターへの外部委託について >  
～今回は緊急的措置・・・今後も市職員として質の高い技能員配置を！～

50年続いた公立園の歴史上、初めての保育園職員の外部委託であるにもかかわらず、父母連が  
認知したのは、2月議会の予算成立までほとんど間がないタイミングの2月中旬でした。

シルバー委託により、今までの技能員業務は継続して行っていただけるのだろうか、人の出入り・  
入れ替わりを前提にした保育体制は保育士・栄養士・調理師・看護師など多職種による一体的な保  
育の実施に困難をもたらすことはないだろうか？などの疑問や不安が払拭されませんでした。その  
ため、せめて2月議会で正確な情報をもとに十分に議論・検討していただきたいとの思いから、陳  
情書「公立保育園退職技能員枠の外部委託計画の見直しについて」を議会に提出しました。その後、  
3月の代表者会と抱き合わせで、「車座討議“技能員さんの役割と草加の保育について”」を行い（全  
市議会議員にご案内を送付しました）様々な立場からの情報提供や活発な意見交換を行いました。

その結果、市の方針として27年度までに全ての退職技能員枠を外部委託する計画があること、  
技能員のシルバー委託は法律上「偽装請負」の危険性をはらんでいること、業務委託は全て仕様書  
によらなければならないこと、業務内容に制限があること、などがわかりました。そのため、外部  
委託により保育現場が困らないような配慮を市議会にて確認していただきたいとの願いから、父母  
連として議会最終日に向けて更なる市議会議員への訴えを行いました。議会中のご多忙にもかかわらず、  
市民の声に耳を傾けていただきましたことに感謝いたしたいと思います。また多くの議員さんとのやりとりを通し、  
今回の外部委託は技能員の補充が困難であったための臨時的措置であり、今後市による保護者や市民への説明や検討が必要であるとの助言もいただきました。お陰さまで4  
月には保育課主催の説明会を開催していただき、一定の不安は解消されました。

乳幼児期の子どもたちにとって、保育園は人との温かいかわりの中で成長していくためのとて  
も大切な場所です。草加市には多大な尽力をいただいていると感謝するとともに、人材確保も含め  
て今後も市職員として質の高い技能員の配置をお願いしていきたいと思います。

## 2. わかりやすく、やりがいのある父母会・父母連づくりへの取り組み

< 父母連ニュースの発行 >

各保育園の保護者の皆さんに、父母連としての活動や各園での取り組みについてわかり易くお伝

えするために、毎年事務局からは「父母連ニュース」を発行しています。19年度は、計9回発行(6/9・7/14・9/8・10/13・11/10・1/12・3/8・4/1・4/12)し、『第2きたうら保育園3・4・5歳児保育の継続 / 羽生市とねの会保育園見学会報告 / あずま保育園・さかえ保育園建て替え説明会報告 / 父母連アンケート報告 / 保育料の支払い / 公立園0歳児保育の家庭保育室への移行・家庭保育室整備計画(素案) / 子育てのつどい / 市長懇談会 / 入園・進級おめでとう号 / 草加市の指定管理者制度導入についての実際 / 技能員の外部委託など』についてお伝えしてまいりました。よりわかりやすいニュース作りをめざし、20年度も取り組んでいきたいと思っております。ご意見等ございましたら、各父母会役員もしくは父母連メール [info@soka-fuboren.org](mailto:info@soka-fuboren.org) までお願いします。

#### < 会長会・代表者会の開催 / ブロック体制により皆で支え合う父母連活動 >

19年度は年3回の会長会(6・10・1月)そして年11回の代表者会(5・6・7・9・10・11・12・1・2・3・4月)を開催してきました。会長会では、各園の状況や父母会運営についての情報交換 父母連事務局からの新たな提案などが行われました。代表者会では、父母連事務局から各園への様々な事務伝達や報告 父母連活動方針や内容の検討 各園からの報告 保育情勢などに関する学習 などを行いました。各園の会長や代表者の皆さん、ご協力ありがとうございました。今年度の会議を通して出されましたご意見・反省点は、是非20年度に生かしていきたいと思っております。

また、専従のいない父母連活動を皆で支えて行こう!との確認のもと、各父母会を「谷塚・草加・松原・新田ブロック」に分けて、印刷作業などの父母連事務局の仕事をともに分担し合いながら活動を行っていただくことで、事務局の負担も軽減されました。ご協力ありがとうございました。20年度は、19年度の反省を生かして、各ブロック連絡係の負担軽減や計画的に活動できるよう、「2008年度父母連活動分担年間予定表」に沿って活動していくことを代表者会で確認しました。

#### < 父母連アンケートの実施や市長懇談会への取り組み >

父母連の活動は、各園の保護者の皆さん一人ひとりの声が集まって初めて可能となるものです。そのためにも各園の声を会長会や代表者会で直接情報交換し合うと共に、年に1回各園の全保護者の皆さんに父母連要求アンケートを行い、一人ひとりの声を市への要望事項や保育改善運動に反映させるための大変重要な取り組みを行っています。その集計結果は父母連ニュースにてご報告したり、集計結果を冊子にして各園にお配りしたりしておりますので、皆さんで回覧されたことと思います。また特に19年度は、アンケートの記述部分を父母連事務局配布のフロッピーに父母会毎に入力していただく大切な作業を担当していただきました。ありがとうございました。

19年6月に実施した父母連アンケートの結果、次のような傾向がみられました。

保育料が高いと感じている家庭が多く、その傾向は低年齢クラスになるほど高くなっている。保育内容やクラス人数にはおおむね満足しているが、施設・設備に満足している家庭は半数弱である。

時間外・延長保育の利用者が約7割である。

草加市での出産割合が3割に満たず、近隣自治体(特に越谷市)での出産傾向が高い。

完全給食を望む声が多く、自費を負担してでも実施を希望する家庭が7割弱ある。

要望としては依然として保育料の値下げ・完全給食の実施・病児保育の実施を望む声が多い。

これらのアンケート結果や各父母会のご意見をもとに要望書などを作成し、19年度は1/25に開催された「市長懇談会(今までの要望集会とは異なり、役員レベルでの少人数の市長懇談会)」での話し合いなどに反映させました。

その結果、保育料のきょうだい減免については、20年度からは家庭保育室だけではなく「きょうだいが幼稚園に入園している場合についても減額算定の対象とする」とともに、すべての階層において年齢が下の子の保育料を減額する、病児・病後児保育についても20年度より「看護師や保育士などの資格を持つ提供会員により、派遣方式の病児・病後児保育を実施する」との大きな前進がありました。市の尽力に感謝いたすとともに、私たち保護者の思いが市政に反映されたことをともに喜び合いたいと思っております。今後も一人ひとりの声や各父母会の声を大切にしながら、大きな父母

連の動きにつなげていきます。

#### < 父母連ホームページの充実 >

18年度に立ち上げた父母連のホームページですが、19年度は父母連の活動をより多くの方に知っていただくために「父母連の活動/草加市の保育園/これからの予定/おしらせ」などの内容の更新に力を入れてきました。また、父母連メール [info@soka-fuboren.org](mailto:info@soka-fuboren.org) を通して、皆さんのご意見・ご質問をキャッチし、父母連事務局としてできるだけ迅速に対応するよう心がけてきました。今後も父母連ホームページや父母連メールを通して、父母連活動が父母連会員一人ひとりにとって身近でわかりやすく、リアルタイムに声を反映できるよう工夫していききたいと思います。

### **3 . 私たち自身が楽しく学べる組織活動をつくる取り組み**

#### < 12 / 16 (日) 「第16回草加子育てのつどい」の開催 >

19年度も一昨年同様、父母連・草加市職員労働組合保育部会・草加市家庭保育室連絡会・NPO 法人さくらんぼ・NPO 法人子ども広場草加おやこ劇場との共催で「第16回子育てのつどい」を獨協大学35周年記念館で行いました。市内の家庭保育室やNPO 法人さくらんぼなどの団体による日頃の保育の様子を紹介するパネル展示では、草加市の子育てをいくつもの子育て支援団体や市民が主体的に支えている様子が紹介されました。父母連は「“食”(特に遺伝子組み換え食物)をテーマにしたパネル」や「市内の子育てサポート一覧」を作成・展示し、情報と学びを提供しました。子育ての全体企画は、保育学の専門家「東洋大学 清水玲子先生による“くう!ねる!あそぶ!こどもたち”のテーマでの講演会」を行いました。子どもの発達論とともに毎日の育児に対する優しい労い・力強いエール・社会への強烈な提言が込められたわかりやすいお話しで、大変勉強になりました。一方子どもたちは、愉快的パフォーマー「弘前ひろし先生によるさまざまなパネルシアター」を楽しみました。感想アンケートのまとめや報告を父母連ニュース1月号にてお届けしました。

また19年度のつどいには、ご公務でお忙しい中、木下市長・佐々木洋一議員・石田健康福祉部長のご参加もいただき、ともに学びを共有できましたことを心よりうれしく思います。

20年度も、参加して良かったと思える企画を行っていききたいと思います。

#### < 父母会主催「CAPワークショップ」への補助 >

19年度の「CAP (Child Assault Prevention 子どもへの暴力防止) ワークショップ」は各父母会企画で行い、父母連としては大人ワークショップの講師交通費と子どもワークショップ1回分の講師交通費を補助する形で応援してきました。19年度は“やはた・さかえ・こやま・やつか・たかさご保育園”がCAPワークショップを開催し、子どもを守る取り組みを行いました。

#### < 3 / 22 「草加市の指定管理者制度導入の実際」を学ぶ >

現在、公立保育園は“当面直営を継続する”とされておりますが、20年度は市内の27施設が指定管理更新の時期でもあることから、NPO 法人元気っ子クラブ理事長の小池奈津夫氏を講師にお招きして「草加市の指定管理者制度導入の実際」について学びました。難しい法律の話をわかりやすくご説明いただき、学童保育における指定管理者選考の実情や全国の実態などを知ることができました。単に建物の管理ではなく、人が人を育てる事業において、この制度はどうあるべきかを考えさせられる学習会でもありました。学んだことを今後の父母連活動に生かしていきます。

### **4 . 共同の輪を広げる取り組み**

#### < 7 / 14、12 / 16 「草加子育て団体交流会」の実施～より幅広い交流へと～ >

公立保育園保護者だけではなく、公立保育園職員・家庭保育室・認可外保育施設・NPO 法人さくらんぼ・NPO 法人子ども広場草加おやこ劇場・あおば学園保護者などの市内のさまざまな子育て

てサポート団体と交流をもち、互いの活動や課題を話し合い、皆で手をつないで草加の子育てを良くしていこう！という目的のもとに行っています。特に19年度は、2回目を子育てのつどいの午後に設定し、「学童保育の会」「獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター」に初参加していただくことで、学童における課題や子育てにかかわる専門家のサポートなど、今までとは違った視点からのサポートの大切さを学ぶことができました。

### < 3 / 8 初めての「育成保育保護者会」の実施 >

子育て団体交流会でも話題にあがりましたが、草加市には公の早期療育施設が少なく、障がいのあるお子さんの待機児が数多くいるのが現状です。特に両親共働きの家庭においては、市の育成保育制度を利用することとなりますが、継続的な入園が難しいなど、悩みは尽きないようです。まずは、同じ立場の保護者同士で交流して悩みや情報交換を行おう！との目的から、父母連としてはじめてこの会を企画しました。少人数の参加でしたが、「交流できて嬉しい。次回も是非参加したい」との感想が出され、今後も年に数回継続的にこの会を開催していくことを確認し合いました。

### < 民主教育をすすめる草加市民会議 >

主に小中学校・高校の教育の課題に取り組むゆるやかな集まりで、父母連も団体に加入しています。少人数学級の実現や市内の小中学校の給食の民営化問題、2学期制導入は子どもたちにとって必要なことなのか、などなど、私たち保育園保護者が数年後に当事者として直面する学校教育をめぐることがらを、学校の先生、学童保育の指導員や保護者、女性団体と日常的に意見交換やとりくみを作っています。もちろん保育も教育ですので、保育園の保育料のこと、待機児童のことなど、父母連から保育情勢を発信し、この会にあつまる市民との共有や一緒のとりくみをすすめています。

民主教育をすすめる草加市民会議も父母連と同様、市宛の要望を提出して市との懇談や教育予算説明会などの機会を作っています。この中には家庭保育室の充実や公立園における0歳児保育の継続、保育料の値下げ、完全給食の実施、病児・病後児保育などの要求を父母連からの提案で入れています。

### < 母親大会 >

「生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」を合言葉にした半世紀以上の長い歴史のある、母性を核にして暴力と貧困のない世の中作りを取り組む運動体に、草加父母連も加入しています。9月の草加母親大会（勤労福祉会館）の乳幼児分科会には父母連が運営責任団体としてかわりました。

